

山川中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①自分の考えをまとめ、文章で表現できる生徒の育成。
- ②基礎・基本の学習が定着し、主体的に学習に取り組んでいける生徒の育成。

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 目標を継続し実践することによって、学年があがることに真剣に取り組んでいる。	①宿題やあゆみを欠かさず提出し、書く技能を身につける。 ②セミナーテストで基礎学力の定着を図る。 ③授業に真剣に取り組むことができる。 ④家庭学習が1時間以上できる。	①コラム視写提出率 100% 自主勉強ノートやあゆみの提出率 95%以上 工夫が見られる自主勉強ノートや、あゆみの内容が豊かになるように努める。 ②セミナーテストの平均点 80点以上 ③授業集中 90%以上 ④1時間以上の家庭学習 90%以上	・セミナーテストの平均点が80%に達していないので、復習の機会や自主勉強の課題を工夫する。 ・家庭学習時間の調査をする。	①朝のセミナーの時間に月1回徳島新聞の鳴潮(子ども鳴潮)の視写に取り組んだ。 ②担任や教科担任が、提出物の点検を細かく実施し、期日を守って提出できるように取り組んだ。 ③本時の目標とふりかえりの見出しカードを各教室に配布し、授業時に掲示するように、教員全員に呼びかけた。 ④授業開始時の5分で、読み聞かせ、計算プリント、単語テスト等を実施した。	①各クラス、100%視写することができた。 自主勉強ノートやあゆみを毎日クラスごとの提出率が88%であり、95%以上には届かなかった。 「自主勉強ノートやあゆみの内容が豊かになった」が67%であり、今後も引き続き指導が必要である。 ②講座ごとに1年生6回、2年生7回、3年生2回セミナーテストを実施。1年生平均点80点、2年生平均点78.8点、3年生平均点78.5点だったので、全学年平均79.1点となり80点以上には達成できなかった。 ③授業集中成果指標が90%以上の91.4%であった。 ④1時間以上の家庭学習の成果指標が90%以上の94.9%であった。
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
書くことに苦手意識を持っている生徒が多く、語彙が少ない。学習習慣が確立していないため、基礎的・基本的な知識・技能の習得が難しい生徒がいる。	①朝の学習の時間にコラムの視写をする。 ②内容が充実した自主勉強ノートやあゆみを紹介する。 ③授業の目標と流れを的確に提示する。 ④板書の工夫や視覚支援なども含め教員は教材研究を行い、よりよい授業作りに努める。	①月1回コラムを視写する。 ②課題提出率を80%以上にする。 ③目標と授業のふりかえりの提示を教員全員ができています。 ④授業導入の習慣化の徹底が全教科で共通理解できている。	・声の大きさのヒストグラムや発表の時の態度について、各教室、廊下に提示し、発表の仕方を工夫する。	B	・課題提出率が97%となり、80%以上を達成できた。今後も引き続き、各教科で、提出率を上げるための指導を実施していく。 ・授業時における本時の目標とふりかえりの見出しカードの提示が不十分な部分があるので、学校全体で徹底させたい。 ・授業の導入の習慣化においては、94%の達成率となっており、次年度も引き続き実施していく。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 調べ学習で、決められたテーマに沿って調べたことを自分でまとめることができる。	アクティブ・ラーニングで主体的・協働的に学ぶことができる。 目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを進んで話したり書いたりできる。	「自分の意見や考えをまとめて文章で書いたり、言語で表現したりする力が向上したと思う。」(自己評価)の肯定的割合を、70%以上にする。	・声の大きさのヒストグラムや発表の時の態度について、各教室、廊下に提示し、発表の仕方を工夫する。	①学校全体で、授業力向上月間を年2回計画し、実施した。 ②授業中のICT活用を定期的に全教員に呼びかけた。 ③授業でホワイトボードを活用した授業が実施できるように取り組んだ。 ④各クラスの教室、廊下に「声の大きさヒストグラム」や「発表の時の態度」についてを掲示した。	①指標を達成した。 ②授業中のICT活用率69%で、目標を達成した。 ③ホワイトボードの活用が31%にとどまっている。 ④発表の仕方のモデルを提示することで、生徒が意識することができた。
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
まとめた文章を書いたり、自分の意見をまとめて発表したりするのは苦手である。	①オープンクラスで、お互いの授業を見合って、効果的な授業方法を学ぶ。 ②調べ学習にICTを利用する。 ③ホワイトボードミーティングを活用した授業を取り入れる。 ④積極的に自分の考えや意見を発表できる。	①年2回以上、互いの授業から学ぶ研修の機会を持つ。 ②授業でICTを活用する。30%以上 ③各教科でホワイトボードを学期に1回以上活用する。 ④発表の仕方のモデルを提示する。	A	・自分の意見をまとめたり、伝えたりする力の向上は不十分である。ホワイトボードミーティングを利用した展開を授業に取り入れていく。 ・自分の意見を書いたり、発表したりすることに対する意識が低いため、授業等で、ワークシートの工夫をしたり、付箋紙を使って根拠を明らかにしていくような発表の機会を作っていく。	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた課題については真面目に取り組む、仕上げる事ができる。	①学ぼうとする意欲・意識を明確にし、家庭学習や苦手な課題にも自分から取り組むことができる。 ②読書をする習慣をつける。 ③自己受容感、貢献感、責任感をもつことができる。	①家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図る。 ②読書が好きである 70%以上 ③「自分の良さに気づいている」の割合を70%以上	・生活アンケートにおいて、自分の成長につながったことを振り返らせ、自分の良さに気づかせる。	①「場に応じたあいさつや言葉遣いができるように、生徒会のあいさつ運動を始め、授業の開始時や終了時のあいさつの仕方を教室に掲示した。 ②学校全体で2分前着席を実施し、授業に集中するように各教科担任が指導に努めた。	学校評価アンケートにおいて、①は90.8%となり、家庭との連携が十分にとれていると考える。また、③は85.7%で、自分のよさに気づくことができている。しかし、②は62.9%となり、70%に達成していない。
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
自分から課題を見つけて取り組むことは苦手である。家庭での読書の習慣が身につけていない。	①授業の開始と終了に元気なあいさつができるよう指導する。 ②学習規律の明確化と徹底を図る。	①「あいさつがよくできた」(自己評価)の肯定的割合を95%にする。 ②学習規律について、共通理解して、各授業で指導する。	A	クラスごとの多読賞や、給食時の校内放送を通じて、図書委員会からの「本の紹介」を全校生徒に行ってきた。その結果、読書好きの生徒の割合は向上したが、まだ不十分である。今後も、読書好きの生徒を作るために、学校全体で取り組みを続けていく必要がある。	

平成31年度 学力向上ロードマップ

